

I部 リサーチ・ヘリテージとしての森岡清美調査資料群 ——森岡調査資料との出会い——

小林 多寿子

1 森岡物置調査

森岡清美⁽¹⁾は、宗教社会学と家族社会学の分野における傑出した数多くの研究業績によって戦後を代表する社会学者の一人として評価されている。それらの優れた研究業績のうちかなり多くが手堅い実証的研究にもとづくものである。森岡がおこなった実証研究は、研究対象とする現場に直接足を運び、現地で資料を収集し、関係者に会って話を聞くフィールドワーク型の調査を基盤としている。戦後まもない1947年より取り組み始めた農村調査、真宗寺院調査、キリスト教会調査、家族調査等々では、おおよそ数日から一週間程度の現地滞在をともなうフィールドワーク型調査を何度もおこない、現地でたんねんに資料を集め、インタビューを繰り返し、それらの調査データを精査して考察し、独創的な研究成果を多数輩出してきた。

このような数々の綿密な調査は、1947年に卒業論文のための村落調査以来、2015年8月、白川党のメンバーであった井上豊忠のライフヒストリー研究（『真宗大谷派の改革運動—白川党・井上豊忠のライフヒストリー』ミネルヴァ書房、2016）のために山形県長井市でおこなった調査にいたるまで、実に約70年におよぶ。そのあいだに蓄積されたフィールドノート、調査票や収集した関連資料などの調査の産物を森岡はどのようにあつかってきたのだろうか。そのような問いのもと、森岡自身へインタビューがきっかけで私たちは森岡調査資料群と出会うことができた。

30年以上にわたり質的調査研究に携わっている私たちは、インタビューやフィールドワークの積み重ねのなかで得たたくさんの質的調査資料を手元に抱えており、それらの資料の扱いについて具体的に検討しなければならない事態に直面している。そこで、質的データ・アーカイヴ化研究会⁽²⁾をつくり、「質的データとしてのライフストーリーのアーカイヴ化と〈調査遺産〉継承の経験的研究」という研究課題で科研費（2011-2013年度）を得て、とくに調査で得られたパーソナル・ドキュメントやオーラル・データ、フィールドノートなどの質的調査データの管理保存に関する現状調査を実施した。さらに、長年実証研究に取り組んできた先達の社会学者にさまざまな調査データや資料等の扱いについて尋ねるインタビューをおこない、戦後の質的な調査研究を切り拓いてきた社会学者が調査資料をいかにあつかってきたのかを調べることにした。その先達の社会学者としてだれよりもまず宗教社会学・家族社会学での調査研究で第一人者である森岡清美に尋ねたかった。

2012年1月31日、森岡清美は戦後一貫して取り組んできたフィールドワーク型の調査の詳細を語ってくださった（「森岡清美先生が語る 2012年1月31日」『質的データ・アーカイヴ化とリサーチ・ヘリテージ』2014:59-88）⁽³⁾。そのなかで、これまでの調査資料を自宅の物置に保管していると言及された。そこで物置を一度見せていただきたいと申し出て、2012年7月30日、物置を拝見する千載一遇の機会をいただいた。

森岡宅の物置は、居宅裏手の1階壁面に沿って建てられている長方形の小屋である。物置のな

かには三段の棚が設けられており、その各棚いっぱい調査ごとにひもでしばった束や紙袋に入った状態で調査資料は積み上げられていた。それぞれの資料の束は埃をかぶってはいたが、調査ごとにきちんとまとめられて置かれていた。そこで、保管されている調査資料がどのようなものであるかを調べるために資料を預かり、資料リストを作成することになった。森岡清美調査資料群（以下、森岡資料群と略する）とは、このときに預かった資料全体を指している。

2013年4月28日午後、森岡宅の物置を訪れ、保管されている調査資料をすべていったん文書箱に入れて一橋大学の小林研究室に運んだ。文書箱の数は20個である。色褪せ、もろくなった紙袋に入った資料の束を物置の棚ごとに右上、右下、左上、左下と配置場所を箱に記しながら収めていった。

研究室に持ち帰った森岡資料群は、① 資料内容のリスト化、② 資料のスキャンニング、③ 森岡自身による資料の解説という三つの段階で資料内容の把握をすることにした。

- ① 資料のリスト化—大学院生⁽⁴⁾の山崎晶子によって一覧表作成作業がおこなわれた
- ② 資料のスキャンニング—全資料のスキャンニング作業は大学院生の小野寺薫、徳安慧一がおこなっている。2016年以降の追加資料のスキャンニングと主要資料の目録作りは大学院生の庄子諒が担当した。
- ③ 森岡による資料解説—資料の束には簡単に調査地名等が記されていたが、それぞれの資料がどのような調査によるものか、森岡自身によって解説してもらうことにした。資料解説は、調査資料現物をみながらいずれも一橋大学の研究室において三回にわたり実施した⁽⁵⁾。

第一回資料解説 2014年2月24日

第二回資料解説 2014年10月15日

第三回資料解説 2015年3月2日

森岡自身による資料解説は、各回おおむね午前中2時間、午後2時間の計約4時間、3回あわせて12時間以上（解説録音総時間約13時間20分）に及んでいる。

2 森岡資料群の概要

森岡は、これまでにおこなってきた調査の資料を自宅裏の物置と書斎に続く書庫、これら二か所に分けて保存している。そのうち、物置資料は過去の完了した資料であり、現在の研究生活で使っている資料は書斎に続く書庫においている。本稿で森岡資料群と呼ぶ資料は過去の完了した調査研究資料の集合体である。

森岡資料群は、1947年の卒業論文のための調査に始まり、1950年代60年代におこなった調査の資料がもっとも多く、その中心となっている。1970年代の調査資料は東京教育大学および国際基督教大学での社会調査実習を兼ねた調査で得た資料がおもである。1980年代では「国事殉難者の慰霊実態調査」資料、「家族とライフコース FLC」共同研究での静岡調査、柳田国男による山村調査のリースタディ調査という三種の調査資料が含まれている。70年以上におよぶ森岡の研究キャリアのうちその前半で取り組まれた調査の資料である。

森岡資料群の内容概要は、以下の点にまとめられる（くわしくは表Aと表B参照）。

- (1) 1947年から1985年までのあいだに実施された調査資料が含まれている。
- (2) 1950年代60年代に取り組んだおもな調査のうちかなりの調査資料が含まれている。
- (3) 調査資料には、共同調査と単独調査の両方による資料が含まれている。共同調査とは、1950年代より、労働省、九学会連合、農村SSM（日本社会学会の「日本農村における Social Stratification and Mobility 調査」）、社会保障研究所、真宗史研究会等、多様な研究グループや機関などを調査主体として実施された研究に森岡が共同研究者として取り組んだ調査である。単独調査とは、初期の村落社会調査のほかはそのほとんどが宗教社会学的研究に関するものであり、おもに真宗寺院および真宗門徒団調査とキリスト教会調査関連の調査である。
- (4) 調査資料の具体的な内容は、調査票（個票）（記入済および未記入）、調査ノート（森岡の手書き）、面接（聞き書き）ノート、メモ（森岡の手書き）、手紙類、作文、地図、書類、行政資料、図、表など、多岐にわたる。
- (5) 調査資料はおおよそ調査ごとに束ねられて調査地等の調査に関わる名称がどこかに記されて保管されていた。さらに森岡自身による解説によってどのような調査の資料であるかがほぼ同定されている。

3 森岡調査資料群の意義

以上のような調査資料群を検討することはどのような意義をもつのかをつぎの三つの点で考えたい。

第一に、宗教社会学、家族社会学において戦後の研究展開をリードしてきた森岡の業績のもとになった調査はどのようなものであったのか、これらの資料群によって把握できることである。森岡が実証研究の大家であることはよく知られているが、では、実際にどのような調査をおこなってきたのかをあらためて理解させてくれるのがこれらの調査資料群である。とくに森岡の研究者人生の前半期に取り組んだ調査の実際を知ることができる。ほとんどの調査資料は調査時期や調査地などがわかるものであり、また森岡自身によって資料はおおよその解説がなされている。さらに森岡自身が詳細な研究年譜と自伝を公刊しているため、それらの解説や付随資料と対照させることで調査資料群を研究成果と結びつけて考えることが可能になっている。さまざまな研究論文における議論がいかなる調査に依拠して展開されたのかを詳細に探究することができるのである。

しかし、これらの調査資料群は、論文や書籍における論述のベースとなった調査データとして、あるいは各論文の主張となる結果を担保する調査データあるいは資料というにとどまらない価値をもっている。

第二の意義は、社会調査の戦後史をとらえることができる点にある。戦後、日本の社会学では本格的な社会調査が実施されるようになり、大学における社会調査教育も始まった。とくに、終戦直後のGHQのCIE⁽⁶⁾によるアメリカからもちこまれた調査方法が戦後の社会調査、とくに農村調査に多大な影響をあたえたといわれている。森岡資料群の1950年代の調査資料からCIE関

係者による調査実施の具体例を検討することができる。また1950年代に取り組まれた九学会連合調査や農村SSM調査などの社会学的調査は断片的にしか知られていなかった。森岡資料群は1950年代におこなわれた社会調査の実際をあきらかにする手がかりとなるだろう。この資料群をもとに森岡自身もかつておこなったようなリサーチ・スタディによって当時の調査の実際を検証することも可能であろう。

第三に、戦後間もない1947年から1950年代、60年代の調査資料はそれ自体で歴史的価値を有していることである。高度経済成長期の日本社会の変化はさまざまに論じられているが、その変化が及ぶ以前の、そして変貌の途上にある村落社会や家族のありようが調査資料のなかには描かれていて歴史的な記録としても重要な意味をもっている。反復調査がおこなわれた調査資料には変化のプロセスが映しだされている。また、2000年代以降の現代の実態と比較するならば、その変化の実際が一層あきらかになるであろう。

このような意義をふまえた森岡資料群の多角的な検討は、まさにいま取り組んでいるところであり、本特集では、まずは森岡資料群の概要を示すことを目的としている。この調査資料の具体的な内容の紹介、実際の調査と業績の関係の検討、またさまざまな観点から資料を通じて論じうることを森岡資料群調査に関わったものとして本特集では示したい。

第二次世界大戦直後に社会学者として出発した森岡は、その社会学研究の展開自体が日本の社会学の発展と重なっている。とくに一貫して実証的研究を中心においてきた森岡がおこなってきた調査は、多様な社会調査の実践と導きだされた社会学的知見が新たな社会学研究を切り拓いた点で日本の社会調査史のなかで重要な位置をしめている。森岡の調査記録や調査資料は、リサーチ・ヘリテージ、つまり「調査遺産」として継承していけなければならないと考えている。本特集のような検討を重ねながら、森岡資料群を戦後の社会学のリサーチ・ヘリテージとして継承していく方途を探究していきたい。

4 森岡資料群の資料内容

森岡資料群を概観するために、まず全体を調査資料と調査資料以外のものに分ける。そのうえで、森岡が直接おこなった調査資料と森岡以外の人がおこなった調査資料に仕分けて整理し、資料群を概観したい。

森岡資料群には、調査資料以外に、大学の紀要や調査実習報告書や同窓会資料、恩師から預かった資料などが含まれており、それらは直接の調査資料ではないものとして区別している。また、あきらかに森岡自身の関わった調査資料については、その資料内容の概要をつかむために、編年順で調査資料を一覧したい。

以下には、森岡の調査実施年順にしたがって調査内容を列挙していく。調査年とは、最初に調査を手がけた年を指している。一回限りの調査もあれば、その後、継続された調査もあるが、取り組みははじめた年にしたがって編年順に記していく。

森岡資料群の調査資料は、森岡自身によって調査資料や調査票、メモ等を封筒に入れて分類し、さらにその封筒を紐で縛って束にして、その束に手書きで調査名（調査地もしくは調査対象名）を記している。そこでここに記すのは、実施年－束「調査名」－封筒「資料内容」の順で、「」は森岡自身が記していた文言である。最小単位は封筒であり、複数の封筒を紐でまとめた束が森

岡の記した「調査名」である。ただし、調査資料には、調査地や調査対象等の特性もあり、定型化できないさまざまな種類のもが含まれている。また調査の実施にあたって共同調査や単独調査等いくつかの形態があったため、シンプルに分類できないものもすくなくない。そこで、各資料や各調査によっては筆者によって補足の説明を [] で付している⁽⁷⁾。

4.1 森岡資料群の調査年順による資料内容一覧

1940年代

1947年 阿波村調査（卒業論文『日本農村社会の一類型』作成のための調査）

[[阿波村七区]「阿波村」[阿波村誌・阿波小学校]「家族周期に関する三重県阿山郡大山田村下阿波の資料」、1947年、1948年、1952年、1971年の資料を含む]

1948年 伊賀調査（第1修論『宮座と村落社会の構造』作成のための調査）

[三重県阿山郡壬生野村川東 春日神社調査、「伊賀諸村」[伊賀無足人資料]「伊賀における村長その他村役調査」[宮座と村落構造] 調査資料を含む]

1949年 「真宗史資料 仏教史資料」（第2修論『仏教教団の構造』のための調査）

[三重県 浄土真宗本願寺派、天台真盛宗、高田派専修寺についての調査ノートを含む]

1950年代

1950年 伊達教会調査

[①②の資料]

①「福島県伊達町 伊達教会又付近の社会調査 1月19日-25日」

②「福島県伊達郡十岡村 社会調査資料 1月末22日-24日」

1950年-52年 島村教会調査

[島村教会調査3回、①から⑤の資料を含む]

①「群馬県佐波郡島村 第1回社会調査 昭和25年1月28日-31日」

②「埼玉県児玉郡藤田村宮戸 第1回社会調査 1月28日-31日」

③「第2回島村教会調査 昭和26年10月7日-10日」

④「第3回社会調査 群馬県佐波郡島村 昭和27年5月27日-30日」

⑤「日本農村と基督教—群馬県島村教会の事例について 1951.10.23」

1950年 労働省農村婦人生活調査

[労働省婦人少年局婦人課により1950年8月実施、①から④の資料を含む]

①「婦人少年局農村調査」

②「群馬県額部村」

③「山形県大和村」

④「愛知県春日村」

1951年 石川県浅川村二俣調査

[真宗大谷派本泉寺、桜井徳太郎と調査。「調査村の概況」[世帯別調査票] を含む]

1951年 長野県小県郡神川村国分調査

[1951年8月19日-23日東京教育大学第一回社会調査実習]

1951年 「友人関係調査」

[東洋英和女学院専攻科 「友人関係調査票」]

1952年 長野県小県郡滋野村中屋敷調査

[1952年8月18日-26日東京教育大学第二回社会調査実習]

1952年-58年 石川県町野町調査

[九学会連合能登調査 町野町調査1952年7月29日-8月8日 町野町単独調査1952年11月、53年11月、1955年7月、1958年8月]「調査ノート」「石川県町野町川西 分布図」「能登の寺院」等を含む]

1952年-53年 山梨県津金村調査

[ユネスコ国内委員会社会的緊張特別委員会委嘱、家族緊張調査実施、1952年10月13日-16日、11月18日-22日、1953年3月8日-14日]

1953年 石川県越路町芹川調査

[九学会連合能登調査 越路町芹川調査 1953年8月4日-9日 芹川単独調査1953年11月25日-28日]

1953年 長野県豊科町調査

[有賀喜左衛門に依頼された『豊科町誌』(1955年12月刊行) 編纂のため東京教育大学社会学教室の中野卓、間宏とともに豊科調査を実施。何度も現地に赴く]

1953年・56年 「中学生の作文」調査

- ①「津金(山梨)」1953年3月「うちで叱られたときのこと」
- ②「能登(石川)」1953年 町野中学校と越路中学校「お寺について」
- ③「安中(群馬)」[1956年8月 新島学園中学生]

1954年 山梨県大鎌田村調査

[山梨県中巨摩郡大鎌田・二川組合村で農村SSM調査(日本社会学会の共同調査の一環として)。1954年8月23日-31日「農地改革 議事録」「昭和27年度農業センサス基本調査結果表」、「面接記録」等を含む]

1954年-56年 北海道江別市篠津調査

[ICU農村厚生研究所調査 北海道江別市篠津1954年10月27日-11月5日、1956年3月28日]

1955年 白川村平瀬調査

[岐阜県大野郡白川村平瀬 単独調査 1955年7月26日-31日 調査メモ等]

1956年 石川県 深見調査

[東京教育大学社会調査実習 石川県田鶴浜町深見1956年9月4日-9月7日]

1956-57年 安中教会調査

[群馬県安中市 安中教会 1956年6月新保満と調査開始「安中教会報告資料」]

1956年 岡山県新池調査

[アジア財団の依頼により岡田謙を主査とする3年間の農業機械化調査。「新池住民のライフヒストリー 英文1954年」を含む]

1957年 福井県高田派寺院調査

[「福井県下 高田派第一組寺院調査、福井県坂井郡三国町加戸 真宗高田派本流院および周辺

- 寺院調査1957年10月15日-22日実施]「寺院調査票」「寺院分布図」「21カ寺調査票」等を含む]
- 1958年「滋賀県木之本町杉本」調査
[1958年7月31日-8月6日 滋賀県木之本町杉本にて米村昭二と実施。世帯調査票、地図等を含む]
- 1959年62年67年 「高田浄興寺資料」
[新潟県高田市 浄興寺1959年3月、62年8月、67年8月4日調査]
- 1959年・62年 山梨県秋山村調査
[東京教育大学社会調査実習 山梨県南都留郡秋山村中野・神野 1959年8月31日-9月6日]
- 1960年代
- 1962年 山梨県甲西町和泉・東南湖調査
[東京教育大学・ICU 連合社会調査実習 山梨県中巨摩郡甲西町和泉・東南湖1962年8月27日-9月2日]
- 1964年 「大都市近郊における老人生活の実態」
[ICU 社会調査実習報告書(国際基督教大学社会科学研究所発行1965年3月)]
- 1964年-66年 しつけ調査
[家族問題研究会しつけ共同調査、1964年7月杉並区、10月18日-21日山梨県八代郡八代町、1966年台東区]
- 1964年-66年 山梨県日下部キリスト教会 勝沼キリスト教会調査
[「山梨県立図書館資料」「受洗者名簿」「面接記録」等を含む]
- 1964年-65年-66年 「大都市近郊における老人生活の実態」調査
[ICU 社会調査実習 「三鷹市における老人家族調査」調査票を含む]
- 1965年 「三鷹市民の余暇生活」調査
[国際基督教大学社会科学研究所三鷹調査「三鷹市民の余暇生活—主婦を中心として」調査票] 含む]
- 1965年-66年68年 児童養育費調査
[社会保障研究所調査 「児童養育費調査 川崎 労働者世帯調査票」1965、「児童養育費調査 北会津」1966、「児童養育費調査 掛川」1968]
- 1966年-72年-79年 山梨県勝沼調査
[山梨県勝沼町で二世帯比較調査1966年7月14日-20日 東京教育大学社会調査実習を兼ねる。報告書『二世帯比較法による社会変動の研究』(東京教育大学社会研究室1967年) 第二回調査1972年「反復調査による家族変動の研究」、第三回1979年「世帯構造変動の諸要因に関する調査」を含む]
- 1966年 「仏光寺関係史料」
[真宗仏光寺派関係史料「澁谷歴世略伝」「佛光寺系図」等を含む]
- 1967年 「人口移動と神社」調査
[東京教育大学社会学研究室調査 三鷹市野崎・狛江市駒井・清瀬市中清戸「人口移動と神社」

調査票「調査の単純集計」を含む]

1970年代

1970年 「東京桐ヶ丘公住調査」

[米国ケースウェスタン大学サンスマンとの国際比較調査、東京教育大学社会調査実習を兼ねる「東京桐ヶ丘公住調査 調査票」 「参加者写真」 「cross-national research studies in the family list of interviewee」を含む]

1972年73年74年 山形県湯野浜調査

[[宗教と社会変動]に関する日米共同研究による妙智会調査。東京教育大学社会調査実習を兼ねる。山形県鶴岡市湯野浜 1972年6月26日-28日、9月13日-18日、1973年10月24日-30日 「宗教と社会変動に関する研究」調査票 インタビュー記録、1974年10月「妙智会青年部調査」を含む]

1980年代

1981年-82年 国事殉難者慰霊実態調査

[[国事殉難者の慰霊 会津 鹿兒島]資料]

1982年-84年 FLC 静岡調査

[1980年「家族とライフコース」(FLC)に関する日米比較研究開始。1982-84年 FLC 静岡共同調査「FLC 調査票1982.83.84 1982調査票一揃い及びプリテスト」含む]

1985年 山村生活50年共同調査

[[ダム移転による山村生活の変化]調査 1985年9月 三重県飯高町森。柳田国男による1934年-36年の山村調査約30か村中8か所を選び、リスタディを実施した調査の一つ。1985年-87年成城大学民俗学研究所共同調査「山村生活50年」]

4.2 森岡資料群における森岡以外の人がおこなった調査資料

森岡資料群には、森岡自身が手がけた調査の外に、森岡以外の人を実施した調査資料も含まれている。森岡以外の人とは、森岡の恩師、森岡のもとで学んだ東京教育大学あるいは国際基督教大学の学生もしくは大学院生である。それらの資料の多くは、社会調査実習や学生による卒業論文・修士論文のための調査であり、森岡自身が指導したり、関与した共同調査のなかで実施されたりしたものである。これらの調査資料は、森岡以外の人がおこなった調査として別立てにして、以下のとおり記しておきたい。

新保満 1955年「能登半島農村教会調査書類 輪島教会関係」

1956年「三鷹市神社関係」

ICU 学生 1965年68年「ひばりが丘団地家族の生活調査」[ICU 学生の調査]

石原邦雄 1967年「勝沼・年賀状調査」[集計カード 1967年1月]

東京教育大学学生1967年5月26日-28日「農村の都市化における婦人」(東京教育大学社会学教室第8回桐葉祭参加)

井上愛子 1967年-68年「都心教会調査」〔各教会名簿〕〔個別教会参考資料〕等を含む
岡田謙教授 調査資料・講義ノート

その他の資料として、東京教育大学社会調査実習報告書と「年次不詳の文書資料」が含まれているので、以下に掲げておく。

■東京教育大学社会調査実習報告書

- 1957年度 『南伊豆町手石区小稲部落社会調査実習報告』東京教育大学社会学研究室1958年2月
- 1958年度 『南伊豆町下流 社会調査実習報告』東京教育大学社会学研究室、1959年2月
- 1959年度 『山梨県 / 秋山村 / 中野・神野 社会調査実習報告』東京教育大学社会学研究室
- 1960年度 『現代社会の諸問題 昭和35年社会調査実習報告書』東京教育大学社会学研究室
1961年3月
- 1961年度 『佐渡 白瀬 社会調査実習報告』東京教育大学社会学研究室、Feb,1962
- 1962年度 『蔬菜のムラ：和泉・東南湖一昭和37年度社会調査実習報告』1963・3 東京教育大学社会学研究室、国際基督教大学社会科学科
- 1963年度 『「エリート」教師の生活と意見一昭和38年度学生調査実習報告一』東京教育大学社会学研究室、昭和39年3月15日
- 1964年度 『農家の変貌と労働力稼働一神奈川県津久井町中野地区の場合一昭和39年度社会調査報告書』1965・3 東京教育大学社会学研究室
- 1965年度 『ある定置網漁村の研究 1965年度社会調査実習報告』東京教育大学社会学研究室
1966年3月25日
- 1966年度 『二世帯比較法による社会変動の研究 山梨県勝沼町調査報告』昭和42年2月 東京教育大学社会学研究室
- 1967年度 『昭和42年度社会調査実習報告書 アチーブメント・モチベーションの研究』東京教育大学社会学研究室
- 1973年度 『昭和48年度社会調査実習報告書 鉄鋼労働者の労働と余暇』昭和49年3月 東京教育大学社会学研究室
- 1975年度 『呼松町住民の意識 1975年度社会調査実習報告』東京教育大学社会学研究室

■年次不詳の文書資料

- 今村家文書〔三重県立師範学校の恩師・今村晃の実家の古文書〕
- 外国の地図（主にアメリカ）ミシガン州小学校教師の信念表明 Pledge of Allegiance
- International Bibliography in Family (1)(2)
- Reuben Hill Papers
- 東京教育大学『Group Mind』学内版 no.1～no.9

以上のように、森岡資料群には森岡によって実施された調査以外の資料も多く含まれている。これらの資料は森岡の研究キャリアのなかでさまざまな経緯があつて森岡のもとにとどまったも

のである。その経緯は森岡のいう「出会いの知的生態学」⁽⁸⁾の観点から興味深い考察が可能となるであろう。本稿では、まず森岡自身の調査歴との関連で調査資料群の特徴を把握することをめざしている。「出会いの知的生態学」的観点からの検討は後の課題とする。まずは、森岡によって実施された調査の資料群に焦点を絞り、その資料内容を森岡の研究業績との関連でさらに一覧表として示したい。

つぎの表A「森岡資料群概要と調査研究成果」(作成・小林多寿子)は、上記の「森岡資料群の調査年順による資料内容一覧」をもとに、調査の実施年順で調査年と調査名、おもな資料内容、関連業績を一覧表にしたものである。「調査名」は、森岡が「束」に書いた名前をもとに調査地や資料名に即して「調査名」として記す。「資料内容概要・調査付記」は調査資料の内容についての補足説明である。「関連業績」はそれぞれの調査をもとに論文や報告書、書籍として森岡自身が執筆したものを掲げている。それらはおもに調査実施年からあまり隔たっていない直接的な成果を記してあり、後年に結晶した業績や改訂して再録された業績等は含まれていない。これらの「調査付記」と「関連業績」については、8点の自伝的著作⁽⁹⁾と森岡による3回の資料解説にもとづいて関連づけていった⁽¹⁰⁾。なお、本表は森岡自身による確認を経ている(2019年6月5日、6月19日)。

表B「森岡資料群 主要調査資料内容」(作成・庄子諒)は、森岡資料群のうちおもに1947年から1950年代にかけておこなった調査のうち、後年の森岡の主要な研究業績の基になった調査資料についてその資料内容を具体的に記したものである。この表によって資料群を構成している具体的な資料アイテムがわかり、森岡資料群の概要がつかめるのではないかとおもう。

森岡資料群についての検討作業は、預かって以来6年経過してもいまだその途上にある。森岡の70年におよぶ研究キャリアをふまえると、初期の調査の数々はその研究歴の地層となり水脈となっており、後の研究成果へ発展的に枝葉が伸びていく大きな樹木のようにキャリア展開図が描けるのではないかとおもう。本特集はそのような展開図をとらえるに至る中間段階の報告である。森岡資料群にはとりわけフィールドノートやインタビュー記録、調査票個票などがさまざまな現地資料とともにまとまって残されており、社会調査の戦後初期の展開過程をあきらかにするうえで、貴重な資料であることはまちがいない。社会調査史のうえでもまた現代史の記録としても価値あるリサーチ・ヘリテージとして、今後、さらに考察を深めていなければならないと考えている。

なお、本特集Ⅱ部は、森岡資料群に含まれる調査資料をもとにして資料群の検討作業に関わった五人の研究者による考察の成果である。

注

- (1) 本特集では人名はすべて敬称を略す。
- (2) 質的データ・アーカイブ化研究会は、2011-2013年度科研費研究課題「質的データとしてのライフストーリーのアーカイブ化と〈調査遺産〉継承の経験的研究」(研究代表者・小林多寿子、研究分担者・桜井厚、井出裕久・小倉康嗣)に取り組んだ。

本特集は、2014-2016年度科研費研究課題「戦後日本の質的社会調査の系譜とリサーチ・ヘリテージとしての継承可能性の経験的研究」(研究代表者・小林多寿子、研究分担者・桜井厚)および2017-2019年度科研費研究課題「社会学者の自伝とリサーチ・ドキュメントから再構成する質的調査展開の知識社会学的研究」

(研究代表者・小林多寿子、研究協力者・森岡清美、桜井厚)による研究成果の一部である。徳安慧一と庄子諒は各科研費研究においてRAを務めた。

- (3) 森岡清美へのインタビューは東京教育大学の卒業生である研究分担者・桜井厚からの依頼によって可能となった。
- (4) 本稿の「大学院生」はすべて一橋大学大学院社会学研究科に在籍。
- (5) 資料解説の際、大学院生の沢辺満智子、小野寺薫、山崎晶子、祖父江隆文、徳安慧一がさまざまなサポートをおこなった。第一回の解説には、井出裕久、小倉康嗣が参加している。
- (6) GHQ(連合軍最高司令官総司令部 1945-1952)に設けられた民間情報教育局 Civil Information & Educational Sectionを指す。
- (7) 「4.1 森岡資料群の調査年順による資料内容一覧」では、「」は森岡が資料に記した言葉、[]はおもに森岡の解説にもとづいた筆者の補足、()は2019年9月の校正での森岡自身による補足である。
- (8) 森岡清美先生喜寿記念誌編纂委員会編2000『出会いの知的生態学—森岡研究室からの出発』
- (9) 森岡清美1993『私の歩んだ道』(私家版) [「家・家族と宗教—わが研究遍歴の回顧と展望—」改題、森岡編『近現代における「家」の変質と宗教』新地書房、1986:376-394]、森岡清美2000『生きる』(私家版)、森岡清美先生喜寿記念誌編纂委員会2000『出会いの知的生態学—森岡研究室からの出発—』、森岡清美2002『日日新』(私家版)、森岡清美2003『年譜・著作目録』(私家版)、東京教育大学社会学教室交流会編2005『ある社会学徒達 それぞれの体験 実証研究の拠点で』、森岡清美2012『ある社会学者の自己形成—幾たびか嵐を越えて』ミネルヴァ書房、森岡清美2016『年譜・著作目録 再訂版 2016.10.28』(私家版)
- (10) なお、本特集の各論文は、2019年6月に森岡清美自身にお目通ししていただいている。

【参考引用文献】

- 質的データ・アーカイブ化研究会編 2014『質的データ・アーカイブ化とリサーチ・ヘリテージ』(2011-2013年度科学研究費 研究成果報告書)
- 東京教育大学社会学教室交流会編 2005『ある社会学徒達 それぞれの体験 実証研究の拠点で』
- 森岡清美 1993『私の歩んだ道』(私家版) [「家・家族と宗教—わが研究遍歴の回顧と展望—」改題、森岡編『近現代における「家」の変質と宗教』新地書房、1986:376-394]
- 森岡清美 2000『生きる』(私家版)
- 森岡清美先生喜寿記念誌編纂委員会 2000『出会いの知的生態学—森岡研究室からの出発—』、森岡清美2002『日日新』(私家版)
- 森岡清美 2003『年譜・著作目録』(私家版)
- 森岡清美 2012『ある社会学者の自己形成—幾たびか嵐を越えて』ミネルヴァ書房
- 森岡清美 2016『年譜・著作目録 再訂版 2016.10.28』(私家版)

(一橋大学大学院社会学研究科教授)

表 A 森岡調査資料群概要と調査研究成果

作成・小林多寿子 [2019年3月現在]

調査年	調査名 (調査地・資料)	資料内容概要・調査付記	関連業績
1947	阿波村調査	阿波村調査 [三重県阿山郡阿波村および隣村] は卒業論文『日本農村社会の一類型』(1947年12月提出) のために実施。1947年、1948年、1952年、1971年の資料あり「阿波村」「下阿波」	「同族結合に関する一試考」『社会学研究』2:1日本社会学会1948:73-88
1948	伊賀調査	三重県阿山郡壬生野村川東で宮座調査「伊賀諸村」「伊賀無足人資料」「伊賀における村長その他村役調査」(特別研究生論文「宮座と村落社会の構造」1949年1月提出)	「村落の階級構造と宮座」『社会科学論集』1、東京教育大学社会科学学会、1954:110-161 「伊賀無足人制度の諸問題」『伊賀郷土史研究』3、1954:63-77
1949	「真宗史資料 仏教史資料」	三重県真宗本願寺派、天台真盛宗(一志郡)「寺院名簿」、高田派専修寺調査資料	「仏教教団の構造—浄土真宗高田派の教団組織について」(未刊行)
1950	伊達教会調査	福島県伊達町 伊達教会及び付近の社会調査 1月19-25日 福島県伊達郡十岡村 社会調査資料 1月22-24日	
1950-52	島村教会調査	群馬県佐波郡島村 第1回島村教会調査 昭和25年1月28-31日 埼玉県児玉郡藤田村宮戸 第1回社会調査 1月28-31日 第2回島村教会調査 昭和26年10月7-10日 第3回島村教会調査 昭和27年5月27-30日 「日本農村と基督教—群馬県島村教会の事例について1951.10.23」	「日本農村における基督教の受容」『民族学研究』17:2日本民族学協会、1953:1-14 「島村キリスト教会の形成と展開」『明治期キリスト教会形成の社会史』東京大学出版会、2005:185-242

1950	労働省農村婦人生活調査	労働省婦人少年局による農村調査1950年8月「S25労働省農村婦人生活調査」「群馬県額部村」「山形県大和村」「愛知県春日村」	「春日村の婦人」『農村婦人の生活—実態調査結果報告』労働省婦人少年局編、1952:43-48
1951	石川県浅川村二俣調査	石川県河北郡浅川村二俣 真宗大谷派本泉寺、桜井徳太郎と調査「調査村の概況」「世帯別調査票」	
1951	長野県小県郡神川村国分調査	東京教育大学第一回社会調査実習 1951年8月19-23日	
1951	友人関係調査	東洋英和女学院専攻科 「友人関係調査票」	
1952	長野県小県郡滋野村中屋敷調査	東京教育大学第二回社会調査実習 1952年8月18-26日	
1952-58	石川県町野町調査	九学会連合能登調査 町野町調査1952年7月29日-8月8日 町野町単独調査1952年11月、53年11月、1955年7月、1958年8月 「調査ノート」「能登の寺院」「石川県町野町川西 分布図」等	「町野町における真宗門徒の教団内婚」『人類科学』6、九学会連合、1954:219-232 「宗教生活—鳳至郡町野町川西の真宗門徒団を中心として—」『能登—自然・文化・社会』九学会連合能登調査委員会、1955:210-244 「真宗門徒団の組織と活動—奥能登町野町川西の事例—」森岡編『増補版真宗教団における家の構造』御茶の水書房、2005:171-217
1952-53	山梨県津金村調査	ユネスコ国内委員会社会的緊張特別委員会委嘱、家族緊張調査実施、1952年10月13-16日、11月18-22日、1953年3月8-14日「津金村和田」資料	「農村家族における緊張の性格と処理」隅谷三喜男編『日本近代化の諸展開』日本YMCA同盟出版部、1965:89-115

1953	石川県越路町芹川調査	九学会連合能登調査 越路町芹川1953年8月4-9日 越路町芹川単独調査1953年11月25-28日	
1953	長野県豊科町調査	有賀喜左衛門による『豊科町誌』（1955年12月刊）編纂のため東京教育大学社会学教室の中野卓、間宏とともに豊科調査 「豊科町 明治以後ノ系図」「豊科町 学校一覧」「豊科町宗教」「豊科町 町村合併」等	「自治制」『豊科町誌』豊科町役場、1955:318-402、449-518
1953-56	「中学生の作文」調査	「津金（山梨）」1953年3月「うちで叱られたときのこと」津金中学校 「能登（石川）」1953年3月 町野中学校と越路中学校「お寺について」 「安中（群馬）」「お寺」「お宮」「教会」1956年8月新島学園中学校	
1954	山梨県大鎌田村調査	山梨県中巨摩郡大鎌田・二川組合村で農村SSM調査 1954年8月23-31日 「農地改革 議事録」「農業統計 全村」 「面接記録」等	
1954-56	江別市篠津調査	ICU 農村厚生研究所 北海道江別市篠津調査1954年10月27日-11月5日、1956年3月28日	「北海道篠津兵村の展開と村落構造一祭祀組織を中軸として」『社会科学論集』東京教育大学文学部4、1957:1-97
1955	白川村平瀬調査	岐阜県大野郡白川村平瀬調査1955年7月26-31日、新保満とともに 調査メモ、『岐阜県白川村調査報告資料』（「家」制度研究会、1954年7月）等	「飛驒の毛坊主」真宗史研究会編『封建社会における真宗教団の展開』山喜房仏書林、1957:205-238
1956	石川県田鶴浜町深見調査	東京教育大学社会調査実習1956年9月4-7日	

1956-57	安中教会調査	群馬県安中市 安中教会1956年6月新保満と開始。「安中教会報告資料」	「日本の社会構造における障害要因—安中教会の社会学的分析から」日本基督教団宣教研究所編『キリスト教教育を阻むもの』日本基督教団出版部、1958:167-172 森岡清美編『地方小都市におけるキリスト教会の形成—上州安中教会の構造分析』（新保満と共著）日本基督教団宣教研究所、1959
1956-59	岡山県新池調査	アジア財団による3年間の農業機械化調査（「新池個人のライフヒストリー—英文1954年」含む）	「農村における宗教行動と家族的地位」『宗教研究』192、1967:33-54
1957-59	福井県高田派寺院調査	福井県下高田派第一組寺院調査 福井県坂井郡三国町加戸 真宗高田派本流院および周辺寺院調査1957年10月15-22日 「寺院調査票」「寺院分布図」「21カ寺調査票」等	「重層的寺壇関係」原田敏明編『社会と伝承』2-1、1958:1-9 「真宗教団における寺連合の諸類型」岡田謙他編『家—その構造分析』創文社、1959:319-346 「真宗大坊をめぐる合力組織」『社会科学論集』7、1960:1-87
1958	滋賀県杉本村 真宗寺院調査	滋賀県長浜市木之本町杉本調査 1958年7月31日-8月6日 世帯調査票、地図等	「毛坊主と村の道場」萩原龍夫・真野俊和編『聖と民衆』名著出版、1986:231-247
1959-62-67	新潟県高田浄興寺調査	1959年3月、62年8月、67年8月4日 「高田浄興寺資料（『浄興寺の由緒と別派の理由』「仏教小教団の独立過程」草稿等）」	「真宗浄興寺派の成立」『日本浄土教史の研究』平楽寺書店、1969:559-572 「地方一小教団の独立—真宗浄興寺派の成立過程」『増補版 真宗教団における家の構造』御茶の水書房、2005:77-116

1959	山梨県秋山村調査	東京教育大学社会調査実習 山梨県南都留郡秋山村中野・神野1959年 8月31日-9月6日	
1962	山梨県甲西町和泉・ 東南湖調査	東京教育大学・ICU 連合社会調査実習 1962年8月27日-9月2日	
1963	山梨県勝沼町柏尾 調査	1963年7月26日-8月1日山梨県勝沼町 柏尾 [ICU 社会調査実習]	『葡萄作農村の動態—山 梨県勝沼町柏尾を中心と して』（国際基督教大学 社会科学研究所報告書） 1964. 4
1964- 66	しつけ調査	家族問題研究会しつけ共同調査 1964年7月東京都杉並区、10月18-21日 山梨県八代郡八代町、1966年東京都台東 区 「しつけ調査票集計カード」	「児童期のしつけ」（田村 喜代と共著）小山隆編『現 代家族の親子関係』培風 館、1973:128-178
1964- 66	山梨県日下部教会・ 勝沼教会調査	1964年7月26-28日日下部教会調査 「山梨県立図書館資料」「受洗者名簿記録」 「面接記録」「永眠者名簿」等 「勝沼教会会員調査票」調査ノート等	「日本農村における基督 教の土着化」『社会科学 論集』12、1965:1-82 「日下部キリスト教会の 形成と展開」『明治期キ リスト教会形成の社会 史』東京大学出版会、 2005:243-316
1964- 65-66	「大都市近郊におけ る老人生活の実態」 調査	1964年から3年間、国際基督教大学社会 科学研究所を拠点として三鷹市老人調査	「大都市近郊における高 齢者とその子女」笹倉幸 子と共著『季刊社会保障 研究』1:3、社会保障研 究所、1965:49-56 『近郊都市の老人をめぐ る社会的関係網』社会保 障研究所（所内研究資料 No.6704）1968
1965	「三鷹市民の余暇生 活」調査	国際基督教大学社会科学研究所調査「三 鷹市民の余暇生活—主婦を中心として」 調査票	

1965-66-68	児童養育費調査	社会保障研究所「児童養育費調査」 「児童養育費 川崎」1965「児童養育費調査 1966北会津」「児童養育費調査 1968掛川」	「労働者家族における児童養育費の研究（1）一家族周期からみた生活構造の分析を中心に一」『季刊社会保障研究』2-3、1966：72-81 「地方小都市における常用勤労者家族の児童養育費の研究（1）一家族周期からみた生活構造の分析を中心に一」『季刊社会保障研究』5-3、1969：52-68 「調査の計画とその経過」 「調査の結果（世帯の分析）」中鉢正美編『家族周期と児童養育費』至誠堂1970：8-31、84-101、116-127、160-174 『家族周期論』培風館1973
1965	「川崎労働者世帯調査」	社会保障研究所調査 「川崎労働者世帯1965 原票」	「家族周期からみた生活構造の分析（工場労働者家族）」『季刊社会保障研究』2、1966:72-81
1966-72-79	山梨県勝沼調査	勝沼調査第一回 [1966年7月14日-20日山梨県勝沼町で二世帯比較調査。東京教育大学社会調査実習を兼ねる。 「二世帯比較による社会変動調査票1966」 「児童調査票」 勝沼調査第二回「反復調査による家族変動の研究」1972年 勝沼調査第三回「世帯構造変動の諸要因に関する調査」1979年11月 [長期反復調査1966-72-79]	『二世帯比較法による社会変動の研究—山梨県勝沼町調査報告』東京教育大学社会学研究室1967年
1966	「仏光寺関係史料」	真宗仏光寺派関係史料「澁谷歴世略伝」 「佛光寺系図」「真宗仏光寺派制法」等	「近世仏光寺教団における本末関係の特質」笠原一男編『封建・近代における鎌倉仏教の展開』法蔵館、1968:314-345

			「真宗本山と山内院家—近世仏光寺教団の本末関係—」増補版『真宗教団における家の構造』御茶の水書房、2005：39-75
1967	「人口移動と神社」調査	東京教育大学社会学研究室調査「人口移動と神社」調査票（三鷹市野崎 狛江市駒井 清瀬市中清戸）「調査の単純集計」等	「近郊化による神社信仰の変貌」椛島政三郎と共著、國學院大學『日本文化研究所紀要』22、1968:71-136
1970	東京桐ヶ丘公住調査	米国ケースウェスタン大学サンスマンとの国際比較調査〔東京教育大学社会調査実習〕 1970年7月22-28日 「東京桐ヶ丘公住調査 調査票」「参加者写真」「桐ヶ丘公住調査集計カード」「cross-national research studies in the family, list of interviewee」	
1972-73-74	山形県湯野浜調査	「宗教と社会変動」に関する日米共同研究と東京教育大学社会調査実習を兼ねた妙智会調査、山形県鶴岡市湯野浜 1972年6月26-28日、9月13-18日、1973年10月24-30日「湯野浜調査調査票 インタビュー記録」 1974年10月「妙智会青年部調査」	「新宗教の地方伝播と定着の過程—山形県湯野浜の妙智会調査から」（西山茂と）柳川啓一・安斎伸編『宗教と社会変動』東京大学出版会、1979:137-194
1981-82	国事殉難者慰霊実態調査	「国事殉難者の慰霊実態調査 会津 鹿兒島」 鹿兒島・会津資料、阿弥陀寺・長命寺・東京会津会等インタビュートランスクリプト、調査メモ等	「国事殉難戦没者、とくに反政府軍戦死者の慰霊実態」（今井昭彦と共著）『成城文芸』102、1982:1-37
1982-84	FLC 静岡調査	1980年「家族とライフコース」(FLC)に関する日米比較研究 1982-84年 FLC 静岡共同調査 「FLC 調査票1982.83.84及びプリテスト」 1982年8月20-30日 FLC 静岡調査（第一次） 1983年8月24-31日 FLC 静岡調査（第二次） 1984年6月3日 FLC 静岡調査（第三次）	『現代日本人のライフコース』（青井和夫と共編著）日本学術振興会、1987

1985	山村生活50年共同調査	「ダム移転による山村生活の変化」調査 1985年9月三重県飯高町森 [1985年-87年成城大学民俗学研究所共同調査「山村生活50年」柳田国男による1934年-37年の山村調査50年後の再調査プロジェクト、約60村中8か所の調査対象の一つ]	『山村生活50年—その文化変化の研究』成城大学民俗学研究所、1986、1987、1989
------	-------------	--	--

[付記] 本表は、2013年4月に預かった森岡清美調査資料群にもとづいている。そのうち、森岡が単独あるいは共同でおこなった調査資料について、調査実施の年次にしたがって調査資料の内容概要とおもな関連業績を記したものである。「森岡清美以外の人がおこなった調査資料」「東京教育大学社会調査実習報告書」「年次不詳の資料」および学内定期刊行誌は本表には入れていない。

表B 森岡調査資料群 主要調査資料内容

作成・庄子諒 [2019年3月現在]

阿波村調査 [1947年 三重県阿山郡阿波村]

記入済調査票7点

- (1) 阿波村人口戸数及び生業に関する概情調査 : 調査結果の集計1枚
- (2) 夏期基本調査票 : 調査結果の集計2枚
- (3) 春夏作総合作付調査第十八班 : 耕作者17名×1枚組の個票
- (4) 春夏作総合作付調査第十九班 : 耕作者22名×1枚組の個票
- (5) 春夏作総合作付調査第二十班 : 耕作者13名×1枚組の個票
- (6) 所有地及び耕作地に関する申告書1 : 8世帯×1枚組の個票
- (7) 所有地及び耕作地に関する申告書2 : 48世帯×1枚組の個票

調査ノート13冊

メモ24点

名簿11点

表12点

地図4点

報告書2点

手紙類4点

書類8点

調査資料(上記に該当しない各種資料)45点

その他(封筒、調査とは関係のない原稿)5点

伊賀調査 [1948年 三重県伊賀諸村(壬生野村、布引村)]

記入済調査票7点

- (1) 第一調査 現町(村)長 : 当時の町村長13名×1枚組の個票
- (2) 無足人家系調査1 : 26世帯×2枚組の個票
- (3) 壬生野村人口戸数及び生業に関する概情調査 : 調査結果の集計1枚
- (4) 壬生野村川東人口戸数及び生業に関する概情調査 : 調査結果の集計1枚
- (5) 布引村大字坂下人口戸数および生業に関する概況調査 : 調査結果の集計1枚
- (6) 無足人家系調査2 : 17世帯×2枚組の個票
- (7) 無足人家系調査3 : 16世帯×2枚組、および、21世帯×1枚組の個票

未記入調査票2点

- (1) 神主家の伝承に関する調査 : 5枚組
- (2) 人口戸数及び生業に関する概情調査・無足人家系調査 調査票控 : 4枚組

調査ノート10冊

メモ56点

名簿5点

図1点
表8点
グラフ1点
地図3点
草稿1点
調査資料12点
その他（封筒）2点

島村教会・伊達教会調査 [1950-52年 群馬県佐波郡島村、福島県伊達町]

記入済調査票3点

(1) 島村教会調査世帯別調査票1

：3世帯×1枚組の個票、および、余白や裏面に聞き書きを含む書き込み多数

(2) 島村教会調査世帯別調査票2

：4世帯×1枚組の個票、および、余白や裏面に聞き書きを含む書き込み多数

(3) 島村教会調査世帯別調査票3

：3世帯×1枚組の個票、および、余白や裏面に聞き書きを含む書き込み多数

聞き書き21点 ；島村教会関連のものが14点、伊達教会関連のものが7点。

聞き取りを行った人物やトピックごとに、原稿用紙や白紙、罫線紙に書かれている。

不明瞭な点も多いが、おそらく島村教会関連で約20名分、伊達教会関連で8名分がある。

調査ノート3冊

メモ61点

名簿2点

図4点

表4点

地図4点

草稿2点

報告書3点

手紙類1点

書類1点

調査資料3点

その他（封筒）7点

労働省農村婦人生活調査 [1950年 群馬県額部村、愛知県春日村、山形県大和村]

未記入調査票2点

(1) 婦人週間世論調査 ；1枚組

(2) 名簿フォーマット ；1枚組

調査ノート3冊

メモ6点

調査資料3点

その他(封筒)1点

石川県町野町調査 [1952-58年 石川県町野町川西調査、真宗寺院調査]

記入済調査票2点

(1) 寺院調査票 : 7寺院×3枚組の個票

(2) 世帯調査票 : 95世帯×1枚組の個票

未記入調査票3点

(1) 「田の神祭り」調査質問票 : 3枚組

(2) コミュニケーション調査 調査票 : 5枚組

(3) 環境調査票(原案) : 8枚組

調査ノート7冊(うち原稿用紙を綴じたもの1点を含む)

メモ34点

名簿8点

図1点

表3点

グラフ1点

地図2点

手紙類1点

学生レポート1点

書類1点

調査資料4点

その他(封筒、ゼミ資料)2点

「中学生の作文」調査 [1953-56年 山梨県津金村、石川県町野町・越路町、群馬県安中町]

未記入調査票1点

(1) 子どもへの質問票 : 1枚組

作文9点 : 中学生の作文には以下の3種類がある。おおむね1名につき用紙1枚に収まっているが、ときおり2~3枚にわたる場合がある。

(1) 山梨県津金村における「叱られたときのこと」に関する作文 : 128名分

(2) 石川県能登地方における「寺」に関する作文 : 164名分

(3) 群馬県安中周辺における「教会・寺・神社」に関する作文 : 214名分

メモ2点

表1点

調査資料2点

その他(封筒)3点

白川村平瀬調査 [1955年 岐阜県白川村平瀬]

記入済調査票 4点

- (1) 分家カード1 : 39名×1枚組の個票
- (2) 分家カード2 : 5名×1枚組の個票
- (3) 寺院調査票 : 5寺院×3枚組、5寺院×1枚組、および、3寺院×2枚組の個票
- (4) 世帯調査票 : 64世帯×1枚組の個票

聞き書き 8点 : 聞き取りを行った人物やトピックごとに、罫線紙に書かれている。

同一人物へのものも含めて、10名分がある。

調査ノート 1点

メモ 6点

名簿 3点

図 10点

表 2点

グラフ 1点

地図 2点

報告書 5点

調査資料 1点

安中教会調査 [1956-57年 群馬県安中町]

未記入調査票 2点

- (1) 教会員カード見本 : 1枚組
- (2) 教会学校生徒カード見本 : 1枚組

調査ノート 1冊

メモ 5点

名簿 1点

表 1点

地図 1点

草稿 1点

調査資料 5点

その他(封筒) 1点

岡山県新池調査 [1956-59年 岡山県高松町新池]

未記入調査票 18点

- (1) 新池調査票 : 3枚組
- (2) 生産増強調査 : 9枚組
- (3) 機械化調査票 : 8枚組
- (4) 図式調査票 : 6枚組
- (5) 第三次(社会)個別農家調査表 : 8枚組
- (6) INSIGHT TEST (Form A for Women) : 冊子形式で8ページ

- (7) PARENTS SITUATION TEST : 冊子形式で6ページ
 - (8) 機械導入に関する農家の意見調査 : 2枚組
 - (9) 人間関係総合研究調査票 : 8枚組
 - (10) 生活時間調査 : 4枚組
 - (11) 調査村概況調査表 : 17枚組
 - (12) 名倉村調査票 : 2枚組
 - (13) 農業関連調査票1 : 4枚組
 - (14) 農業関連調査票2 : 5枚組
 - (15) 農作業別・月別・時間表 : 3枚組
 - (16) 子ども調査票 : 5枚組
 - (17) 漁村婦人の生活調査 : 2枚組
 - (18) 出版産業労働者家庭生活調査 生活時間調査票 : 2枚組
- 聞き書き1点 : 個人のライフヒストリーを再構成して英訳したものと思われる。
グループのものや同一人物へのものを含めて、約40名分がある。

メモ11点
名簿2点
図2点
表7点
地図3点
草稿3点
報告書1点
調査資料9点
その他(封筒)2点

福井県高田派寺院調査 [1957-59年 福井県坂井郡諸町村]

- 記入済調査票2点
- (1) 福井県下高田派第一組 寺院調査票1 : 22寺院×4枚組の個票
 - (2) 福井県下高田派第一組 寺院調査票2 : 4寺院×3枚組の個票
- 地図1点
その他(封筒)1点

滋賀県杉本村調査 [1958年 滋賀県木之本町杉本]

- 記入済調査票1点
- (1) 世帯調査票 : 42世帯×1枚組の個票
- 名簿2点
図1点
表6点
地図2点

新潟県高田浄興寺調査 [1959-62-67年 新潟県高田市]

メモ3点

名簿1点

調査資料6点

その他(封筒)1点

山梨県日下部教会・勝沼教会調査 [1964-66年 山梨市日下部、山梨県勝沼町]

記入済調査票2点

(1) 勝沼教会会員調査票1 : 36名×2枚組の個票、調査結果の集計4枚、
および、通し番号のみが記入されたもの6枚

(2) 勝沼教会会員調査票2 : 26世帯×3枚組の個票

聞き書き2点 : 勝沼教会会員への面接調査のメモと思われる。原稿用紙に書かれており、不明瞭な点も多いが、2点あわせておそらく約20名分がある。

調査ノート3冊

メモ49点

名簿15点

表14点

地図5点

草稿6点

手紙類2点

学生レポート1点

調査資料7点

その他(封筒)1点